

百相鍵盤『き』

倣い入力

越川 和忠

(09-06-11木 更新)

「倣い入力」は、目的字の文字鍵がなかなか分からない時、あるいは、表記そのものが分からない時に、字引を使って教わりながら打って行く入力操作である。

即ち、手掛かりにする文字列(呼び字列)を与えて、字引にそれが見出しにある項目を引くと、あれば、その項目下の表記が列挙される。同時に、表記を綴るために打って行く鍵が、現在の鍵盤で打つ鍵から順に、鍵盤図に示される。従って、ひとまず、その通りに打つことで入力を果たせる。次からは、今倣った鍵で、直接打って行けばよい。なお、字引になれば、呼び字列自体が表記として出る。

本稿では、次の事柄について、それぞれ例で説明する：

1	読みから表記とその鍵を知る	「かんぺき」→「完璧」	3
2	漢字を他の漢字の語例で知る	「羸」←「弱」の語例「羸弱」	40
3	画面に出ている字の鍵を知る	「税が上がらない」→「税…」	66
4	文字列を割り当てた鍵を知る	「百相鍵盤」	98
5	文字列の一時的配字		103
6	習得用付加機能と練習方法例	文字本位集中練習—「音」	114
7	百相鍵盤の字引		157

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 - ^ ¥
q w e r t y u i o p @ [
々 a s d f g h j k l ; :]
z x c v b n m , . / ¥
← SP → 予

1. *Journal of Management Studies*, 1997, 34, 1, 1-14.

の領域は

かなで「かんぺき」
を入れて行くため、
々(K54)を打って、
甲鍵盤に替える。

読みで漢字・語句（表記）を引く

倣い入力の操作に使う鍵は、

通常入力で使う文字鍵 (K01～49)、Shift (K50)、BS (K62) (乙鍵盤を取り消して甲鍵盤に戻る)、機能鍵 (K54～57) のほかに、倣い入力の間だけ、矢印鍵 (K58～61)、BS (K62)、Enter (K63) の 6 鍵を編集用機能鍵として使う。この場合の 6 鍵は押し続けリピートが利かない。

その他の鍵を打つと、
即倣い入力を中止して、通常入力に戻る。

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜— あ — 予

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

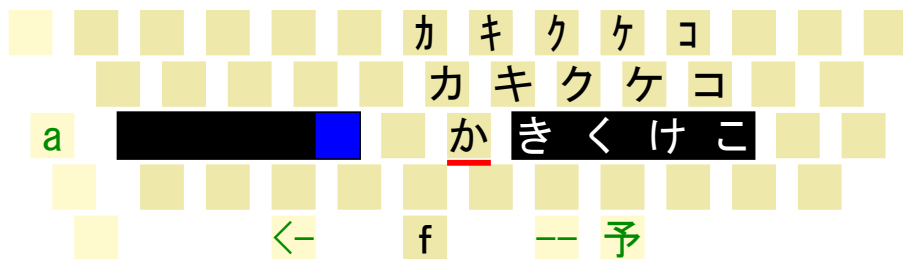
甲鍵盤に替わる。

かの鍵を打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く



か行



「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

乙鍵盤を取り消して
甲鍵盤に戻りたい時
は BS (K62) を打てば
よい。

か行の鍵盤を出し、
か の鍵を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

か

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ あ 予

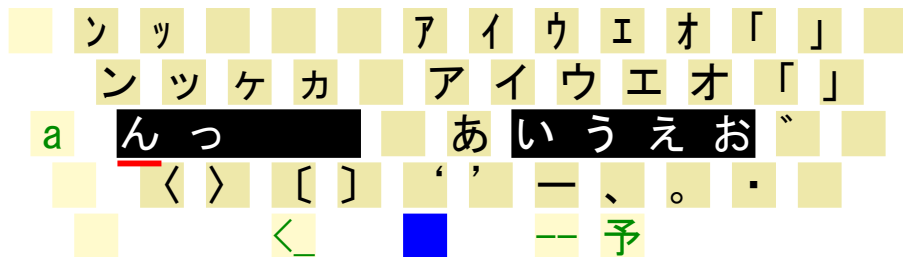
呼び字列に
か
が入る。

あを打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

か

あ行、記号



「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

あ行の鍵盤を出し、
ん の鍵を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ あ 予

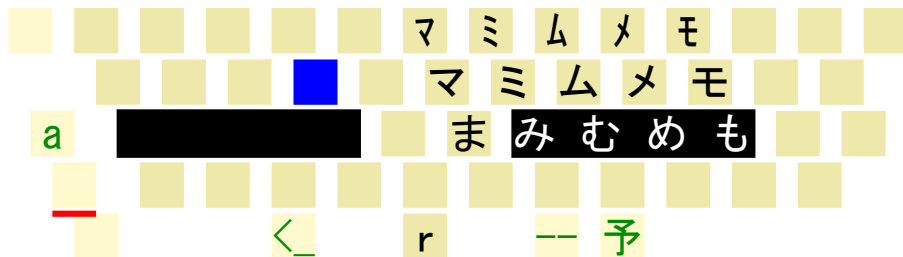
呼び字列に
ん
が入る。

まを打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん,

ま行



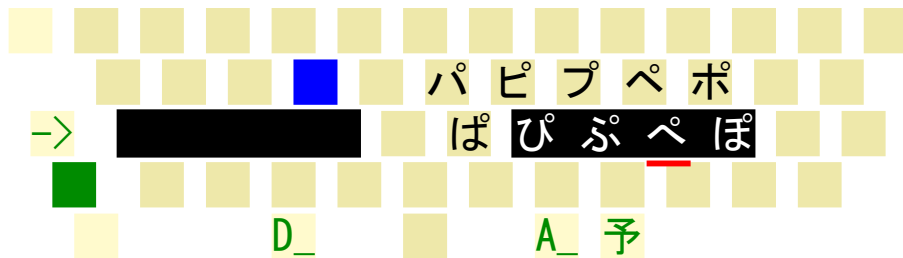
「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

ま行の鍵盤を出す。
ぺは裏鍵盤にある。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん

ぱ行（半濁音）



「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

Shiftを押しながら
出る鍵盤で、
ぺ の鍵を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺ

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

48～94区（第2水準）

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汧	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罅	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				
			D_		00		A_	予					

呼び字列に
ぺが入り、
Shfitを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺ

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予

Shfitを放すと、
表甲鍵盤に戻る。

再び か を打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ あ 予

Enter

呼び字列に
き
が入る。

表記群を出すため、
Enter (K63) を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

表記群が出た直後は
1行目先頭字が対象
(注目字)になる。
注目字は下線付きの
赤い字で示される。
鍵盤図には、打つ鍵
の見出しと Unicode
(右下隅)が赤い字で
示される。注目字の
後に表記の残りの字
がある時は Unicode
の後に+が付く。

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予 5B8C+

表記「完璧」が出て
先頭字 完 の鍵盤が
粥 で示される。

それを打つと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

20区 かゆ～カン

粥刈苧瓦乾侃冠寒刊勘勸卷
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦
<- 7 -- 予 5B8C+

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

注目字の下線の色は
鍵盤が甲鍵盤の時は
青、乙鍵盤あるいは
単打鍵盤の時は緑に
してある。

粥から始まる鍵盤が
出て、完の鍵が
完で示される。

それを打つと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

完 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— <— あ — 予 74A7

完 が入力されて、
次の 壁 が注目字壁
に替わる。
鍵盤に赤い字の鍵が
見えないのは裏鍵盤
にあるからで…

かんぺき

完璧 -を期する

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

完

弑 僉 辦 咫 圉 奸 屐 廖 悄 戛 據 曄 *
 樁 槩 汩 漾 𤇀 瓠 癰 磧 筐 紂 罇 隋
 M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎰 陝 顱 髻 鵝
 堯 續 忒 狢 釗
 <: 00 A_ 予 74A7

Shiftを押すと出る
鍵盤に、**燹**がある。
この鍵を打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

完 |

64区 犬玉

猥 猾 獎 獮 默 獬 獮 獨 獐 獸 獵 獻
獺 珈 玳 玢 玻 珀 珥 珮 珞 璫 琅 瑯
M_ 琥 瑀 琲 琄 瑕 琿 瑟 璫 瑁 瑜 瑩 瑰
瑣 瑪 瑤 瑾 璋 璞 璧 瓊 瓏 瓔 琬
<: T A_ 予 74A7

Shiftを押したまま
出る乙鍵盤に見える
璧の鍵を打つと…

前後の文字を見ると
部首は玉であることが
分かる。

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

完璧 |

表記は、英語の単語と同様に、図形文字だけから成り、半角スペースは含まないものとする。従ってこの例では、壁までが表記とみなして、完了させている。

48～94区（第2水準）

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	壁	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00	A_	予						

壁 の字が入って
做い入力は完了し、
通常入力に戻る。
鍵盤は甲鍵盤に戻り
Shiftを押した状態
の裏甲鍵盤になる。

「完璧」の打鍵を
「かんぺき」の読みで知る

この例に関連させて、
倣い入力における操作の変化を
いくつか説明する。

完璧 |

次からは、今倣った
鍵で直接打って行く
ことが出来る。

倣い入力の過程で、
赤で示される位置を
配列規則に照らして
理解しておく、と、
その後の通常入力が
容易になる。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

Shift を放すと、
表甲鍵盤に戻る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

再びスライド17の状態

20区 かゆ～カン

粥刈苺瓦乾侃冠寒刊勘勸卷
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦
← 7 予 5B8C+

別の文字鍵

示された鍵ではない
文字鍵を打つと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予 5B8C+

別の文字鍵

注目字の下線は色が赤に変わり、やり直しであることを示す。

甲鍵盤で別の文字鍵を打つと無効打鍵になり先に進まない。

打鍵は無効になり、甲鍵盤から打ち直しになる。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予 5B8C →

矢印鍵による
注目字の移動

矢印鍵を打つと、
それぞれの方向の字
が注目字に替わる。
上下は行の途中から
でも先頭字に移る。
既に端や辺であれば
そのまま動かない。

注目字を移る矢印鍵
の打鍵では、原稿に
何も入力されない。

もし、完には関心が
なく、壁が目的なら
→(K60)を打つと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я

— <— あ — 予 74A7

矢印鍵による
注目字の移動

従って、任意の字に
移動して、その入力
練習など也可以る。

注目字は壁に移り、
壁の鍵盤が示される
（該当鍵は裏鍵盤に
ある）。

（スライド18と同じ
鍵盤状態になる）

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

もう一度スライド17の状態

20区 かゆ～カン

粥刈苺瓦乾侃冠寒刊勘勸卷
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾
換敢柑桓棺款歡汗漢澗濯環
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦
← 7 予 5B8C+

Enter (K63) による
倣い入力の終了

文字鍵ではなく、
Enter (K63) を打つと
...

Enter (K63) による
倣い入力の終了

完璧 |

Enter (K63) を打つと
注目字以下、表記の
終りまでが倣い打鍵
なしに一気に入る。
鍵を知る機会は放棄
することになるが、
ひとまず表記が入力
できればよい場合に
役立つ。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

注目字以下、表記の
終りまで、つまり、
完壁
が一気に入って、
通常入力に戻る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

あるいは、注目字だけを
倣い打鍵なしに入力することもできる。
この状態からのその操作を説明する。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	扌	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α	
如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
		く		あ		予						5B8C+

Shift Enter (K63)
による
倣い入力の終了

Shiftを押して…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

48～94区（第2水準）

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楮 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狖 釗

<:

00

A_

予

5B8C+

Shift Enter (K63)
による
倣い入力の終了

Shiftを押したまま
Enter (K63) を打つと
...

Shift Enter (K63)
による
倣い入力の終了

完 |

48～94区（第2水準）

𠄎	𠄐	𠄑	𠄒	𠄓	𠄔	𠄕	𠄖	𠄗	𠄘	𠄙	𠄚	𠄛	*
𠄜	𠄝	𠄞	𠄟	𠄠	𠄡	𠄢	𠄣	𠄤	𠄥	𠄦	𠄧	𠄨	𠄩
M_	茵	蕁	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

注目字の**完**だけが
入って、通常入力に
戻る。
Shiftを放すと…

Shift Enter (K63)
による
倣い入力の終了

完 |

この機能により、
現行配字簿に目的字
の鍵がない時でも、
入力はできるように
してある。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

またスライド17の状態

20区 かゆ～カン

粥刈苺瓦乾侃冠寒刊勘勸卷
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦
← 7 予 5B8C+

做い入力に關与しない鍵
による終了

做い入力に關連する
操作に無關係な鍵、
例えば、Ctrlを押す
と…

倅い入力に関与しない鍵
による終了

|

Ctrlを押しながらの
打鍵は、OSの設定
に従い、百相鍵盤は
関与しない。鍵盤図
は全体を緑字にして
その状態であることを
表す。

a



押した時に、即、
倅い入力を中止して
通常入力に戻る。
鍵盤はCtrlを押して
打つ機能が働く状態
になる。

倣い入力に閔与しない鍵
による終了

見方を変えと、
Ctrl空打ち(押して
放す)で倣い入力を
強制終了できる。

Ctrlを放すと、
甲鍵盤に戻る。

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

前回の状態への復帰

通常入力に戻った後
Shift K55 を打つと
再び、前回の状態に
戻ることができる。

倣い入力を起動する
時、 Shiftを押して
...

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

前回の状態への復帰

48～94区（第2水準）

弌 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楮 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 忞 狢 釗

<= 00 A_ 予

表示が<=に変わった
機能鍵 (K55) を打つ
と...

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

48～94区（第2水準）

弌 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

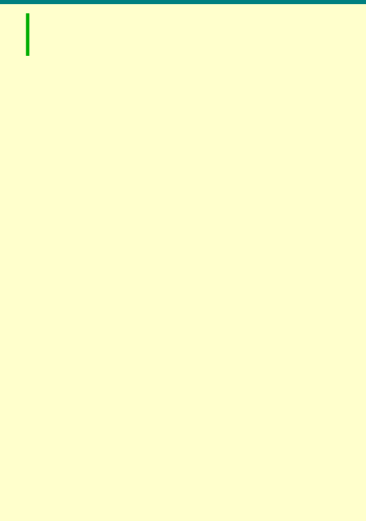
楯 壁 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纘 忒 狢 釗

<: 00 A_ 予 5B8C+

前回の状態への復帰



前の状態を復元して再開する。但し、Shiftを押している間は裏鍵盤が出る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

前回の状態への復帰

|

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 扌 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜- あ -- 予 5B8C+

Shiftを放すと
表鍵盤に戻る。

2 漢字を他の漢字の語例から知る

例として、

羸弱なる者をして農に就かしめたり (文明論之概略)
の文に出会い、羸の読みも部首も知らない時、
既に知っている「弱」の語例として「羸弱」を
引いて知る場合について説明する。

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

倣の機能鍵 (K55) を
打って、倣い入力を
起動する。

読みで漢字・語句（表記）を引く

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予

弱は次の鍵盤にある
ので…

読みで漢字・語句（表記）を引く

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

28区 ジ～シャ

次 滋 治 爾 璽 痔 磁 示 而 耳 自 蒔
辞 汐 鹿 式 識 鳴 竺 軸 突 雫 七 叱
a 執 失 嫉 室 悉 湿 漆 疾 質 実 蔀 篠
偲 柴 芝 屢 蕊 縞 舍 写 射 捨 赦
<- i -- 予

その鍵盤を出す。

弱は裏鍵盤にある
ので…

読みで漢字・語句（表記）を引く

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

28区 シャ～シュウ

斜 煮 社 紗 者 謝 車 遮 蛇 邪 借 勺
尺 杓 灼 爵 酌 釈 錫 若 寂 弱 惹 主
-> 取 守 手 朱 殊 狩 珠 種 腫 趣 酒 首
儒 受 呪 寿 授 樹 綬 需 囚 収 周
D_ A_ 予

Shiftを押しながら
出る鍵盤で、
右小指上段にある
弱 を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

48～94区（第2水準）

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				
			D_		00	A_	予						

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

呼び字列に 弱 が
入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤に戻る。
Shiftを放すと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

< あ 一 予

Enter

表甲鍵盤に戻る。

表記群を出すため、
Enter (K63) を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

弱

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ ー あ 予 5F31

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

この字引には、弱を見出しにする項目がないため、呼び字列自体がそのまま表記として出ている。必要なら字引を取り替える。字引きの取り替えは呼び字列の入力時に行う。

弱が見出しにはないので、弱自体の鍵盤を知らせている。弱が見出しにある字引に替えるため、呼び字列に戻る。＜（K55）を打つと…

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

字引を取り替える

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— 予

呼び字列の編集状態に戻る。

字引を替えるには、Shiftを押して…

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

48～94区（第2水準）

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楫 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罅 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 忒 狃 釗

D_ 00 A_ 予

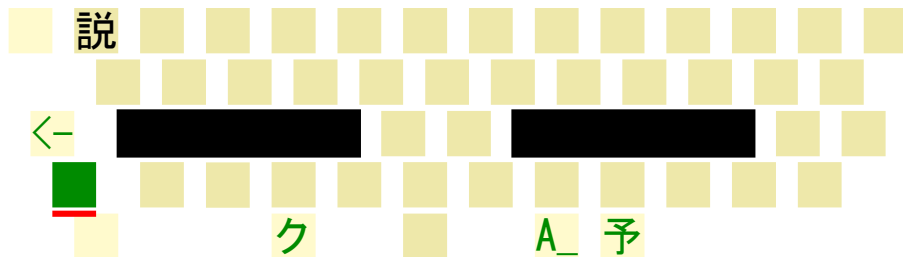
字引を取り替える

Shiftを押したまま
D_が表示されている
機能鍵 K55を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

字引を取り替える



字引を取り替える

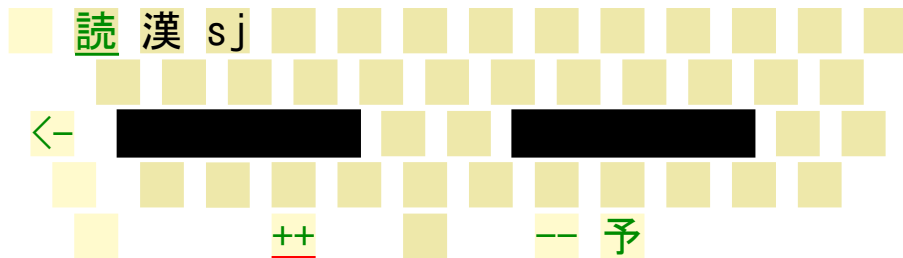
字引を選ぶための
字引鍵盤が出る。

Shiftを押した状態
が出ているので…

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

字引を取り替える



字引を取り替える

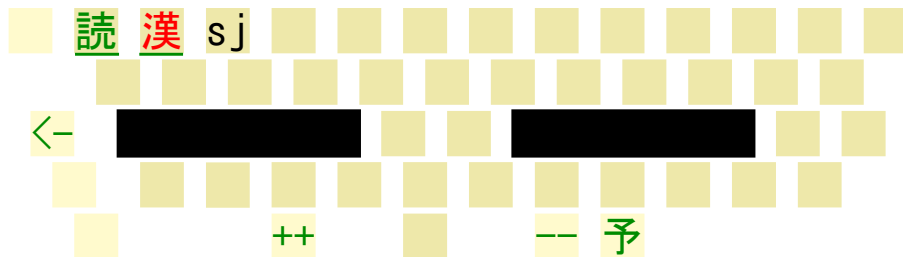
字引鍵盤で、字引の見出しが出ている鍵を打つと、その字引が設定される。呼び字列が見出しにある字引を知りたい時は、K55を打つ。該当字引があれば、その字引の見出しが該当鍵に赤い字で示される。

Shiftを放すと、表鍵盤が出る。現在設定されているk01の字引の見出しが緑の読で示されている。探すため++が出ているK55を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

弱

字引を取り替える



字引を取り替える

該当字引があることを知らせているだけで、それが自動的に設定されるわけではない。

表鍵盤左薬指最上段
漢の字引にあることが示されている。

その鍵を打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

弱

字引を取り替える

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ あ 予

Enter

漢字から引く字引が
設定されて、
甲鍵盤に戻る。
改めて、表記群を
出すためEnter (K63)
を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

強弱 * ;きょうじゃく

虚弱 * ;きよじゃく

気弱 * ;きよわ

弱視 * ;じゃくし

弱者 * ;じゃくしゃ

弱小 * -の身 ;じゃくしょう

弱震 ;じゃくしん

弱卒 勇将の下に-なし ;じゃくそつ

弱体 * ;じゃくたい

弱点 * ;じゃくてん

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<-

あ

--

予

5F37+

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

呼び字列行は字引の
見出し行に替わる。
照合は、両行の先頭
文字列だけで行い、
半角スペースから後
は無視する。従って
二10 ジャク よわ…
は学年、画数、読み
の参考記載である。
語句の配列は五十音
順なので、先頭字が
弱とは限らない。

弱の語例群が出て、
先頭字 強 の鍵盤が
供 で示される。
「羸弱」はこの一群
にないので、次の群
を出す。それには
Shiftを押して…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

強弱 * ;きょうじゃく

虚弱 * ;きよじゃく

気弱 * ;きよわ

弱視 * ;じゃくし

弱者 * ;じゃくしゃ

弱小 * -の身 ;じゃくしょう

弱震 ;じゃくしん

弱卒 勇将の下に-なし ;じゃくそつ

弱体 * ;じゃくたい

弱点 * ;じゃくてん

48~94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圉 奸 屨 廖 悄 憂 據 曄 *

樞 壁 汧 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狢 釗

<: 00 A_ 予 5F3 ↓

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

Shiftを押しながら
下向矢印鍵(K61)を
打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱肉強食 * ;じゃくにくきょうしょく

若年 * 弱年 ;じゃくねん

若輩 * 弱輩 -の身 ;じゃくはい

弱冠 * :男子20歳 ;じゃっかん

心神耗弱 * ;しんしんこうじゃく

衰弱 * 神経- ;すいじゃく

脆弱 ;ぜいじゃく

纖弱 -な体 ;せんじゃく

手弱女 -振り ⇔益荒男 ;たおやめ

惰弱 懦弱 -な精神 ;だじゃく

48~94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

樁 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狄 釗

<: 00 A_ 予 5F3 ↓

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

次の一群が出る。
しかし、ここにも
ないので、
Shiftを押したまま
再び、下向き矢印鍵
K61を打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

年弱 ;としよわ

弱竹 ;なよたけ

弱やか ;なよやか

軟弱 * ;なんじゃく

柔弱 * -な精神 ;にゅうじゃく

薄志弱行 -の徒 ;はくしじゃっこう

薄弱 * ;はくじゃく

微弱 * ;びじゃく

病弱 * ;びょうじゃく

ひ弱 * ;ひよわ

48~94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

樁 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狢 釗

<: 00 A_ 予 5E7↓

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

やはり、ないので、
更に続ける。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

貧弱 * ; ひんじゃく

文弱 ; ぶんじゃく

幼弱 ; ようじゃく

弱い * ; よわい

弱気 * ; よわき

弱腰 * ; よわごし

弱音 * -を吐く ; よわね

弱味 -に付け込む ; よわみ

弱虫 * ; よわむし

弱り目 * -に祟り目 ; よわりめ

48~94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

樁 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狃 釗

<: 00 A_ 予 8CA ↓

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

ここにもないので、
更に続ける。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 ニ10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

48～94区 (第2水準)

弌 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

樁 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纘 恣 狢 釗

<: 00 A_ 予 5F31+

この群の2行目に
「羸弱」がある。

Shiftを放すと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я

<- あ -- 予 5F3 ↓

表甲鍵盤に戻り、
先頭行の弱の鍵盤を
次で知らせている。
2行目に移るため、
下向き矢印鍵(K61)
を打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

ここに到達するまでの
操作を押し続けや
自動にしないのは、
この手順や出会った
他の表記についても
その存在を後に知識
として活かせるから
である。

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я

— <— あ — 予 7FB8+

2行目に移ると、
先頭字 羸 が羸で
示される。文字鍵は
裏鍵盤にある。

Shiftを押すと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

48～94区 (第2水準)

弋 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
楫 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋
M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝
堯 纁 忒 狃 釗
<: 00 A_ 予 7FB8+

右小指上段右 罇 の
鍵盤にあることが
示される。
その鍵を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

70区 耒耳聿肉

耒 耔 耜 耜 耜 耜 耿 耻 聊 聆 聒 聘
聚 聿 聿 聿 聿 聿 聿 聿 聿 聿 聿
M_ 肆 肅 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱
胃 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱 肱
<: ' A_ 予 7FB8+

Shiftを押した状態
の乙鍵盤が出る。

この面にはないので
Shiftを放す。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

70区 缶网羊羽老

罇	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍
罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍	罍

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

表鍵盤右中指位置に
羸が示される。

前後の文字を見ると
部首は羊であること
が分かる。

その鍵を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

弱 二10 ジャク よわい よわる よわまる

弱る * ;よわる

羸弱 -の身 ;るいじゃく

老弱 ;ろうじゃく

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

羸 |

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я

あ 予 5F31

Enter

羸が入力されて、
注目字は表記で次の
弱に移り、弱の鍵盤
が右中指上段に次で
示されている。が、
倣い打鍵は略して、
K63 を打つと...

「羸」の打鍵を
「弱」の語例である
「羸弱」から知る

羸弱 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

残りの 弱 が入って
倣い入力は終了し、
通常入力に戻る。

画面に出ている
文字の打鍵を知る

3 画面に出ている文字の文字鍵を知る

画面に出ている文字であれば、クリップボード
経由で呼び字列に取り込むことで、その文字鍵
を知ることができる。例として、

税が上がらない

の文で、『き』（JIS X 0208）にはない 税 が
画面には出ているので、その鍵を知るという
設定で、その場合の手順について説明する。

クリップボードへは
百相鍵盤の機能では
なく、OSでの一般
操作で写す。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
			倣	あ		一	予					

税が上がらない を
クリップボードに
写しておいてから、
倣 (K55) を打って、
倣い入力を起動する

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

画面に出ている
文字の打鍵を知る

画面からの文字列はその都度、OSから得なければならないので、この機能は、ソフト的に実現した百相鍵盤で実装可能なもので、入力専用機器として具体化を考える百相鍵盤にはない。

クリップボードからの取り込みは、字引を取り替える操作の変種として行う。
Shiftを押して…

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— <— あ — 予

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

画面に出ている
文字の打鍵を知る

48～94区（第2水準）

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楫 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 忒 狄 釗

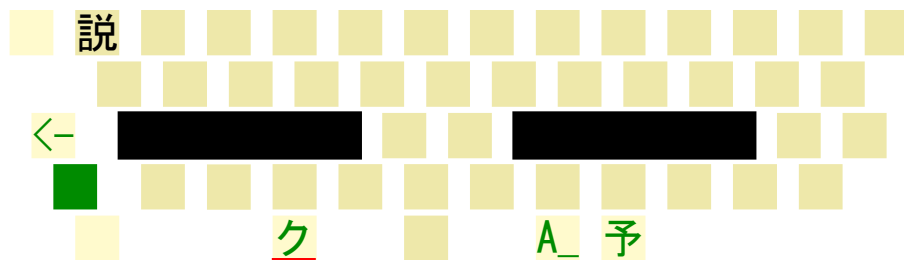
D_ 00 A_ 予

Shiftを押したまま
D_が出ているK55を
打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

画面に出ている
文字の打鍵を知る

字引を取り替える



字引を選択する鍵盤
の裏鍵盤が出る。
Shiftを押したまま
クに変わったK55を
打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がらない

48～94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楯 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罅 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 忒 狄 釗

D_ 00 A_ 予

画面に出ている
文字の打鍵を知る

クリップボードから
税が上がらない
が呼び字列に入り、
Shift を押した状態
の甲鍵盤に戻る。

Shiftを放して…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がらない、

画面に出ている
文字の打鍵を知る

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

< あ 一 予

Enter

表甲鍵盤に戻る。

表記群を出すため、
Enter (K63) を打つ。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

画面に出ている
文字の打鍵を知る

|

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜－ あ 予 68B2+

字引にはないので、
呼び字列がそのまま
出て、先頭字が税で
示される。
該当鍵の表示がない
ので Shiftを押すと
...

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がる

税が上がる

48～94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楯 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 恣 狢 釗

<: 00 A_ 予 68B2+

画面に出ている
文字の打鍵を知る

表裏共なければ、今
設定している配字簿
にはないが、画面に
は税が出ているので
システムにはある。
従って K63を打てば
即入るが、倣い入力
も終わってしまうので
ここでは、この字が
ある配字簿に替えて
その鍵で打つ操作を
説明する。

裏鍵盤にもない。

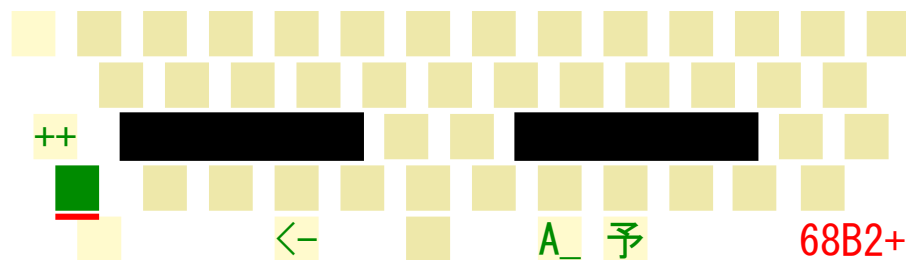
配字簿を替えるため
Shiftを押したまま
M_が出ているK54を
打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

配字簿を取り替える



画面に出ている
文字の打鍵を知る

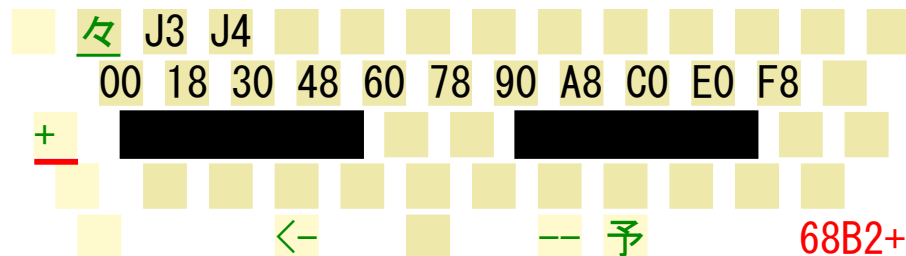
Shiftを押した状態
の配字簿鍵盤に
替わる。
Shiftを放すと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

配字簿を取り替える



画面に出ている
文字の打鍵を知る

配字簿鍵盤で配字簿
の見出しがある鍵を
打つと、その配字簿
が設定される。
目的字の配字がある
配字簿を知りたい時
は K54を打つと、
現行配字簿の次から
探して見つかった鍵
の見出しが赤い字で
示される。

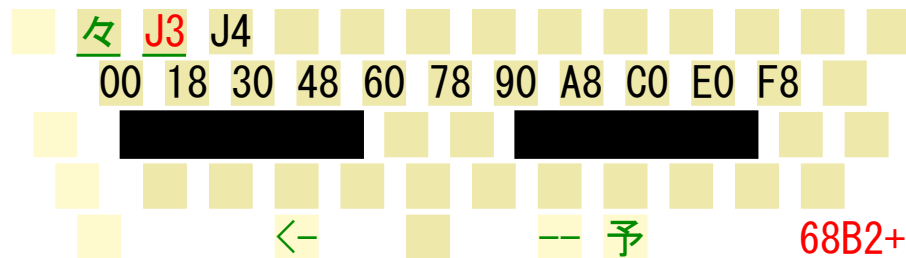
Shiftを放すと、
表鍵盤が出る。
現在設定されている
k01 の見出しが々で
示されている。探す
ため、+ が出ている
K54 を打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

配字簿を取り替える



画面に出ている
文字の打鍵を知る

該当する配字簿の鍵
を知らせているだけ
で、それが自動的に
設定されるわけでは
ない。

左薬指最上段のJ3が
該当簿の鍵盤である
ことを示している。
J3を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

JIS X 0213 1面 1-47区

◆ ▷ あ ア A A — € A ? ① *

① 俱 咩 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検

后 此 察 次 宗 勝 拭 澄 織 臓 叩 帖

邸 董 如 函 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮

— 予 68B2+

画面に出ている
文字の打鍵を知る

この甲鍵盤は、
JIS X 0213 1面 の
文字を、区の鍵盤が
左上から右下へ順に
並ぶ形で配したもの
である。

J3配字簿の甲鍵盤に
替わる。

しかし、**税**の鍵盤を
示す鍵がないので、
Shiftを押すと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

JIS X 0213 1面48-94区

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蕁	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯	攬	▪	溟	琇	硃	絕	菑	訢	釗	顗		
			<:			A_	予						

68B2+

画面に出ている
文字の打鍵を知る

裏甲鍵盤左薬指下段
に
攬
で示されている。
その鍵を打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

1面85区 杓-・

杓 朽 杈 扭 极 科 柄 爪 桤 柿 被 杓
・ 柳 栾 栝 桤 栢 桤 桤 桤 桤 桤 桤
M_ 税 精 斐 桤 桤 桤 桤 桤 桤 桤 桤
植 桤 桤 桤 桤 桤 桤 桤 桤 桤
A_ 予 68B2+

画面に出ている
文字の打鍵を知る

Shiftを押したまま
出る乙鍵盤で、
左小指にある
税
を打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がる

税が上がる

JIS X 0213 1面48-94区

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
楯 槩 汨 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋
M 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝
堯 擣 溟 琇 硃 絕 菑 訢 鈔 顛
A 予 304C+

画面に出ている
文字の打鍵を知る

税 |

税が入って、
注目字はがに移り、
J3配字簿の甲鍵盤で
Shiftを押している
状態になる。
Shiftを放すと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がる

税が上がる

JIS X 0213 1面 1-47区

◆ ▷ あ ア A A — € A ? ① *

① 俱 咩 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検

后 此 察 次 宗 勝 拭 澄 織 臓 叩 帖

邸 董 如 函 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮

— 予 304C+

配字簿を取り替える

税 |

以後、この甲鍵盤で
残りの文字を入れて
行くことができる。
この例の場合、配列
が前と異なるので、
元の配列で使いた
いなら、配字簿鍵
盤を出して取り替
える。

表甲鍵盤に戻る。
がは左人差指最上段
あの鍵盤にあること
を知らせている。

『き』に戻すため、
Shift を押して…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がる

税が上がる

JIS X 0213 1面48-94区

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
楯 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋
M 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎰 陝 顱 髻 鵝
堯 擣 溟 琇 硃 絕 菑 訢 釗 顗
<: A_ 予 304C+

配字簿を取り替える

税 |

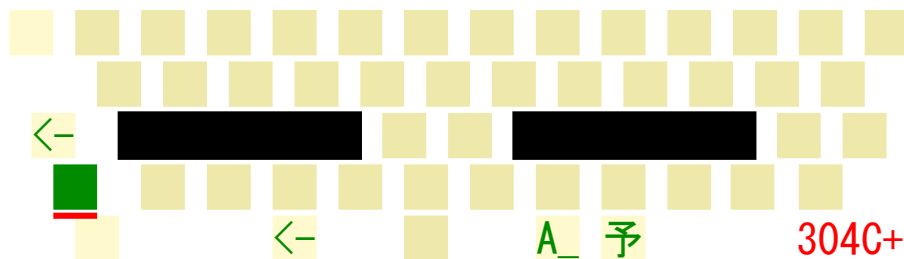
Shiftを押したまま
M_が出ているK54を
打って...

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

配字簿を取り替える



配字簿を取り替える

税 |

配字簿鍵盤を出し、
Shiftを放すと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

配字簿を探す

税

配字簿を取り替える

々 J3 J4 00 18 30 48 60 78 90 A8 C0 E0 F8
+
<- -- 予 304C+

現在設定されている
配字簿が緑の見出し
J3で示されている。
左隣の 々 を打てば
『き』に戻れるが、
序に他も調べるため
+ (K54) を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

配字簿を取り替える

々 J3 J4
00 18 30 48 60 78 90 A8 C0 E0 F8
← 予 304C+

配字簿を探す

稅

30は、U+3000～47FF
(JCKの記号、句読点
平仮名)の範囲を
割り当てた配字簿で
ある。

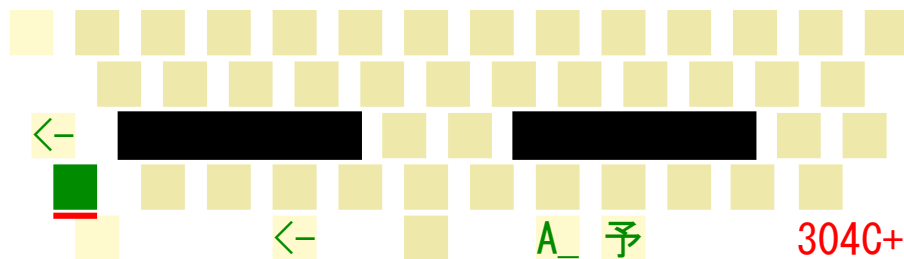
現行配字簿はJ3で、
 30の配字簿にもある
 と知らせている。
 念のため更に調べて
 みるなら、一度、
 Shift を押して…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がらない

税が上がらない

配字簿を取り替える



配字簿を探す

税 |

押し続けか繰返し
をOSが知らせない
鍵の場合、この操
作で、押し続けによ
る自走を避けている。
Windows日本語環
境の半角全角鍵がそ
れに該当する。
Fedora 9 GNOME環
境jp106ではこの面倒
な操作は要らない。

Shift を放し…

税が上がる

稅

々 J3 J4
 00 18 30 48 60 78 90 A8 C0 E0 F8
 +
 <- -- 予 304C+

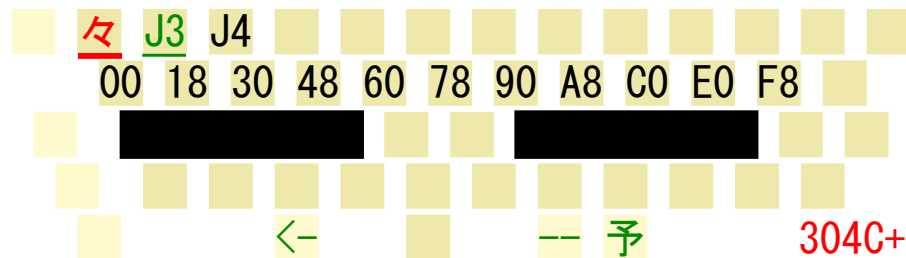
304C+

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

配字簿を取り替える



配字簿を取り替える

税

従って、平仮名 が は、々、J3、30 の 3つの配字簿にあることが判る。

なお、1つの配字簿については、複数の個所に配されていて、簿で最初にある1つだけ採り、それ以上は探さない。

左小指最上段 k01に が示されている。

では、この鍵を打つと...

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

配字簿を取り替える

税 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予 304C+

『き』の甲鍵盤に
戻る。左人差指位置
に、か行鍵盤のかが
出ている。
以下、倣い入力を
続けられよう。
あるいは…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

税が上がる

税が上がる

倣い打鍵の省略操作

税 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<-

あ

--

予

304C+

Enter

後続の字については
鍵を知っているので
倣い打鍵は省いて、
Enter (K63) を打つと
...

倣い打鍵の省略操作

税が上がらない|

が上がる

が一気に入って、
通常入力に戻る。

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

配字簿を取り替える

通常入力時に配字簿を取り替える操作

単打鍵盤か甲鍵盤の
時に取り替えること
ができる。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
			倣		あ		一	予				

Shiftを押して…

配字簿を取り替える

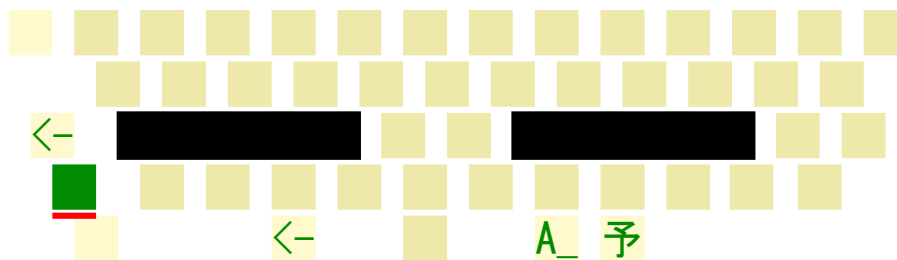
48～94区（第2水準）

	弋	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汧	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M	茵	蕁	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

Shiftを押すとM_に
変る K54 を打って
...

配字簿を取り替える

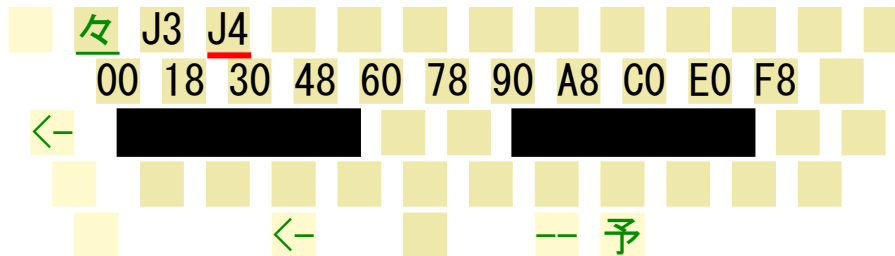
配字簿を取り替える



配字簿鍵盤を出す。
Shiftを押した面が
出ている。
Shiftを放すと…

配字簿を取り替える

配字簿を取り替える



表鍵盤が出る。
現在設定されている
配字簿の鍵が緑の字
で示される。
目的配字簿の鍵、
例えば、J4を打つと
...

配字簿を取り替える

配字簿のない文字鍵を打つなど、甲鍵盤を設定できなかった場合は、元のままである。
いずれにしても、配字簿の取り替えは2打鍵を費やすので頻繁に使う字なら、常用配字簿の空きに収めておくとい。

その配字簿の甲鍵盤に替わる。

JIS X 0212(補助)/0213-2(第4) (1~47区)

■	■	■	儚	唼	埃	■	■	𪛗	Æ	Á	á	幘	*
■	■	■	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗
a	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗
𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗
𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗	𪛗

表記に対する各種打鍵の応答概略一覧

K01～49(文字鍵) 該当鍵以外無効でやり直し。

K54 他の配字簿を探す。

K55 呼び字列の編集に戻る。

K58～61(矢印鍵) 注目行、注目字の移動。

K62(BS) 呼び字列の編集に戻る。

K63(Enter) 注目字以下倣い打鍵せずに入る。

倣い入力に使わない鍵なら即通常入力に戻る。

JIS X 0212(補助)/0213-2(第4) (1～47区)

■	■	■	儇	倭	埃	■	■	𠂔	Æ	Á	á	幟	*
■	■	■	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
a	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
■	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
■	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔

4 文字列を割り当てた鍵

乙鍵盤の文字鍵には文字列を割り当てることができるので、逆に、文字列から、割り当てた鍵を知ることにもできるようにしてある。即ち、**注目行になった時の先頭表記が2字以上の時**それが割り当てられた鍵を先ず探す。あれば、表記全体が(鍵盤図には関与する鍵の見出しが)赤い字で示される。

なければ、先頭字が通常 of 注目字になる。

表記全体が赤で示された場合でも、注目位置を移してしまうと、以後、通常 of 注目字になる。

配字簿鍵盤で該当配字簿を探す K54の指示は、文字が+ (K54)、文字例が++ (Shift K54) である。

探す対象の文字列は
処理の無用な複雑化
を避けるため、
この場合に限定して
いる。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

百相鍵盤

『き』には、
百相鍵盤 という文字列も割り当ててあるので、
例として、その鍵を知る操作について説明する。

まず、百相鍵盤 を呼び字列に入れる。
1字ずつ打鍵で、あるいは、画面にあれば
クリップボード経由で入れる。または、表記群
に出ている表記を呼び字列にする方法もある。
その説明は省略する。

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 ㇿ

く あ 一 予

文字列「百相鍵盤」を
割り当てた鍵を知る

呼び字列に
百相鍵盤
という文字列を入れ
Enter (K63) を打つ。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

百相鍵盤

百相鍵盤

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α	
如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
		<-	あ		--	予						

767E+

文字列「百相鍵盤」を
割り当てた鍵を知る

この字引に百相鍵盤
という見出しはない
ので、百相鍵盤 が
表記としてそのまま
出ている。

百相鍵盤 と出て、
そのような文字列が
右小指最上段右端*
の鍵盤にあることが
示される。
その鍵を打つと…

百相鍵盤

名

767E+

文字列「百相鍵盤」を割り当てた鍵を知る

左小指最上段名が
その鍵であることを
知らせている。と…
その鍵を打つと…

文字列「百相鍵盤」を
割り当てた鍵を知る

百相鍵盤 |

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

百相鍵盤が入って
通常入力に戻る。

5 文字列の一時的配字

編集集中の文書で何度も使う文字列がある場合、それを文字鍵に一時的に割り当てて、その鍵で入れて行くこともできる。

手順

1. 倣い入力を起動する。
2. 呼び字列に目的の文字列を入力する。
3. K63 を打って、それを表記として出す。
4. その配字がないか先頭字だけ注目字の時に K49を単独(k49)か Shift押しながら(k99) 打って、その乙鍵盤を出す。
5. どれか文字鍵を打つと、それに配字される。
 - ・配字されていた文字列は書き替えられる。表記全体が赤い字の表示に変わり、“倣い打鍵ではなかった”扱いになって倣い甲鍵盤に戻る。
乙鍵盤の該当鍵には文字列の先頭字が出る。

配字簿を取り替えると、新たな配字簿に記載された内容に書き替えられる。

一時的割り当ての
できる鍵盤は、甲打
が k49か k99で出る
乙鍵盤だけである。

任意の鍵盤にすると
便利そうに思えるが
実際にやってみると
操作に混乱を来とし
やすいことが判り、
試行錯誤の末、この
鍵盤に固定した。

例として、次の文章を入力して行く際に、4回入力する **呼び字列** という文字列を割り当てて使う場合を説明する。

見出し、備考、読上文、表記、メモは、いずれも文字列で、見出しと表記は半角スペースを含まない。見出しは、**呼び字列**との照合対象になる文字列で、備考は、**呼び字列**から表記群を出した時に、**呼び字列**行に見出しと共に表示させる文字列である。

† **呼び字列**の編集時も、同様の備考を置くことができる。

倣い入力を起動する

|

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 予

倣の機能鍵(K55)を打って、倣い入力を起動する。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列

目的文字列を
呼び字列に入れる

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜ あ 一 予

Enter

呼び字列として、
呼び字列
という文字列を入れ
Enter (K63) を打つ。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び行列

呼び行列

目的文字列を
表記として出す

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜－ あ 予 547C+

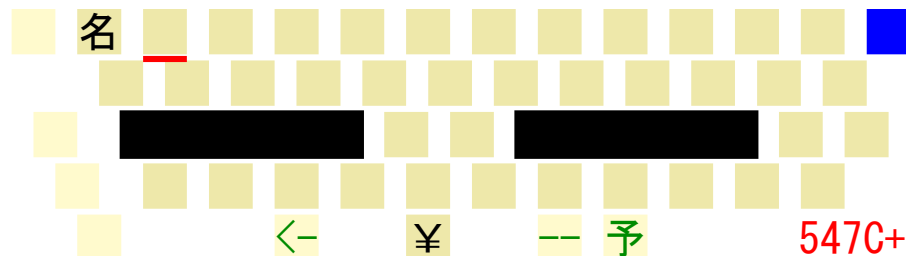
呼び行列がそのまま
表記として出て、
先頭字の呼の鍵盤が
検で示される。
右最上段右端の鍵盤
に割り当てるため、
*の鍵(k49)を打つ。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

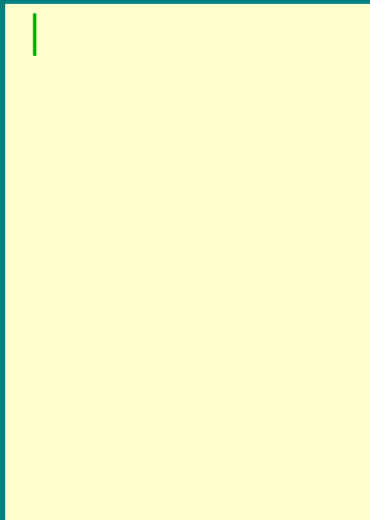
呼び行列

呼び行列

当座の配字用鍵盤



文字列を割り当てる



一時的割り当て可能
乙鍵盤が出る。

左薬指最上段の鍵に
割り当てるとして、
その鍵を打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列

呼び字列

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α	
如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
		く	あ			予						547C+

倣い甲鍵盤に戻る

これは、あたかも、
乙打が目的の鍵では
ないため、甲打から
打ち直しになったの
と同じ状態である。

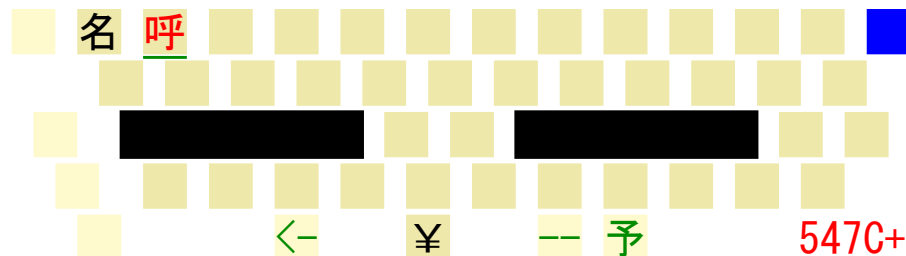
呼び字列が今打った
左薬指最上段の鍵に
割り当てられて、
倣い甲鍵盤に戻る。
改めて*が出ている
右最上段右端の鍵を
打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び行列

呼び行列

当座の配字用鍵盤



割り当てた文字列を
打鍵で入力する



一時的割り当て可能
乙鍵盤が出る。

左薬指最上段 **呼** が
見出しに出ている鍵
を打つと…

割り当てた文字列を
打鍵で入力する

呼び字列 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

Enter

呼び字列
が入って通常入力に
戻る。
この文字列を入れて
みる。
まず、改行して…

割り当てた文字列を
打鍵で入力する

呼び字列

|

1～47区（『き』の配字）

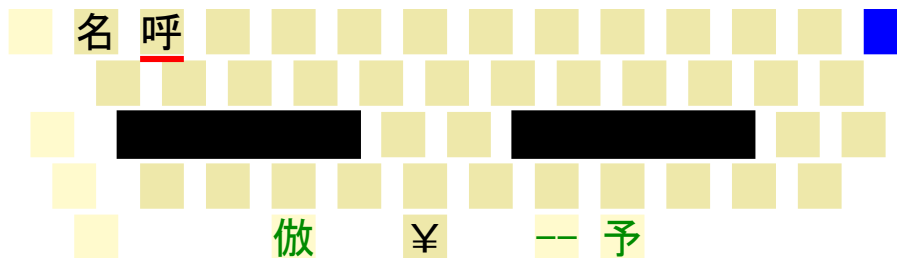
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

右最上段右端 * が
出ている鍵を打って
...

割り当てた文字列を 打鍵で入力する

呼び字列

当座の配字用鍵盤



書替え可能鍵盤を
出し、
呼が見出しに出て
いる鍵を打つと…

割り当てた文字列を
打鍵で入力する

呼び字列
呼び字列 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

割り当てた文字列の
呼び字列
が入って、甲鍵盤に
戻る。

6 習得用付加機能「書写モード」

倣い打鍵で目的の表記が入ると、普通は、通常入力に戻るが、戻らずに倣い打鍵を続けることもできる。この機能を応用すると、字引の内容を書き写して行く感じで入力の練習ができる。つまり、関心のある文章や語句を集めて項目にした練習専用の字引を作って行うわけである。ここでは、1つの漢字について、その語例を数多く打ってみる“文字本位集中練習”と呼ぶ方法について、「音」を例に、紹介する。

その前に…

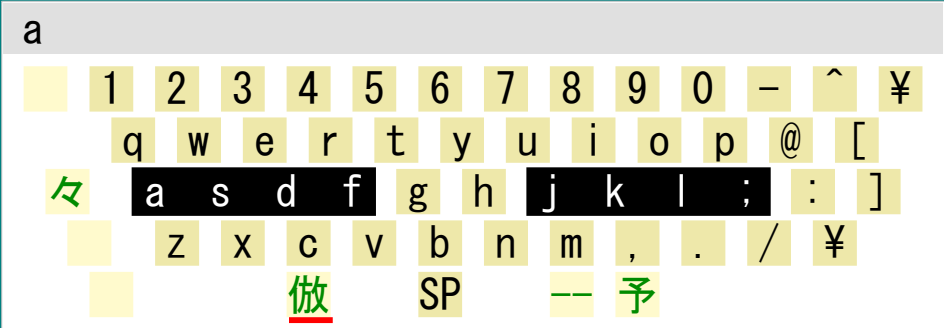
普通の倣い入力との違いは、

1. 呼び字列から表記群を出す時、K63ではなく、Shift K63 を打つ。
2. 表記が入っても通常入力に戻らず、次の字に注目字が移る。
3. 任意の位置で K63 を打つと、
 - ・ Shiftなしの単独なら、原稿は改行され、注目字は次行先頭に移る。
その際、既に、
 - ・ 群末なら、次の群の先頭に移る。
 - ・ 字引末なら、通常入力に戻る。
 - ・ Shiftを押しながらであれば、改行せずに通常入力に戻る。

呼び字列編集に戻ると書写モードは終了する。

文字本位集中練習
「音」

1

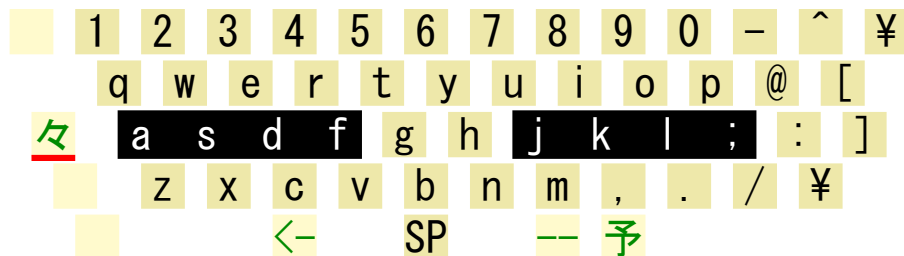


倣が出ている機能鍵
K55を打って、
倣い入力の機能を
起動する。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列を入れる

a



漢字を入れるため、
々 (K54) を打って…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列を入れる

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜－ あ ー 予

甲鍵盤に替える。

呼び字列に「音」を入れるため、
押の鍵を打って…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列を入れる

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩
a 温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河
← 5 予

押から始まる鍵盤を出す。

左中指にある音の鍵を打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— < あ — 予

書写モードで
表記群を出す

普通の倣い入力なら
Enter (K63) を打って
表記群を出す、

書写モードの時は、
Shiftを押しながら
Enter (K63) を打つ。

呼び字列に音が入り
甲鍵盤に戻る。

書写モードで表記群
を出すため、
Shiftを押して…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音

書写モードで
表記群を出す

48～94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楯 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罅 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纁 忞 狃 釗

D_ 00 A_ 予

Enter

Shiftを押しながら
Enter (K63) を打つと
...

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

48~94区 (第2水準)

式 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楮 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狢 釗

<: 00 A_ 予 8DB3+

書写モードで
表記を打って行く

普通の倣い入力とは
違うことを示すため
注目字の下線が太め
になっている。

音の語例群が出る。
先頭表記「足音」の
先頭字が注目字で、
足 が示されている。
Shiftを押している
面に鍵がないので…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я

く あ 予 8DB3+

書写モードで
表記を打って行く

Shiftを放すと、
右人差指の鍵に臈が
示されている。

それを打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

34区 ゾウ~タイ

臓 蔵 贈 造 促 側 則 即 息 捉 束 測

足 速 俗 属 賊 族 続 卒 袖 其 揃 存

孫 尊 損 村 遜 他 多 太 汰 訛 唾 墮

妥 惰 打 柁 舵 橈 陀 駄 驢 体 堆

<-

j

--

予

8DB3+

書写モードで
表記を打って行く

臓から始まる鍵盤で
左小指上段足^足の鍵を
打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足 **音** * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 **押** 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜— あ — 予 97F3

書写モードで
表記を打って行く

足 |

足が入って、
次の**音**に移る。

押の鍵を打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡
 沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩
 温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可
 嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河
 <- 5 -- 予 97F3

書写モードで
表記を打って行く

足 |

押から始まる鍵盤で
左中指音の鍵を
打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

← あ — 予 0020 →

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

普通の倣い入力では
ここで通常入力に
戻ってしまうが、
書写モードでは更に
倣い打鍵を続ける。
例では、次が半角字
なので、単打鍵盤に
替える鍵が示されて
いる。

音が入って、
次の半角スペースに
移る。
ついでに「登音」も
打ってみるなら、
→(K60)を打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

← あ — 予 002A →

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

注目字を移る矢印鍵
の打鍵では、原稿に
何も入力されない。

*に移り、*が出るが
これも素通りして…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

← あ — 予 0020 →

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

この半角スペースも
素通りすると...

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 𨇖音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 𨇖 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 𠂔 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

←

あ

—

予

8DEB+

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

「𨇖」に辿り着く。

裏鍵盤にあるので…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 𨇖音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

48~94区 (第2水準)

𨇖 𨇗 𨇘 𨇙 𨇚 𨇛 𨇜 𨇝 𨇞 𨇟 𨇠 𨇡 𨇢 *
 𨇣 𨇤 𨇥 𨇦 𨇧 𨇨 𨇩 𨇪 𨇫 𨇬 𨇭 𨇮 𨇯
 M_ 茵 蓐 蟪 襦 𨇰 𨇱 𨇲 𨇳 𨇴 𨇵 𨇶 𨇷 𨇸 𨇹
 𨇺 𨇻 𨇼 𨇽 𨇾 𨇿 𨇺 𨇻 𨇼 𨇽 𨇾 𨇿 𨇺 𨇻 𨇼 𨇽 𨇾 𨇿
 <: 00 A_ 予 8DEB+

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

Shiftを押して出る
鍵盤で、
左人差指右の𨇰を
打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 𨇖音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

76区 貝赤走足

賽 賺 賻 贄 贄 贄 贄 贏 贍 賸 齎 贓

賍 𨇖 賸 赧 赧 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖

M_ 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖

𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖 𨇖

<: G A_ 予 8DEB+

書写モードで
表記を打って行く

足音 |

Shiftを押したまま
出る鍵盤で、
右中指の𨇖を打つ。
部首は足である。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 躑^音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

48~94区 (第2水準)

弌 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楮 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯 纈 忒 狢 釗

<: 00 A_ 予 97F3

書写モードで
表記を打って行く

足音躑 |

躑が入って、
注目字は^音に移り、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤に戻る。

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登^音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

← あ 予 97F3

書写モードで
表記を打って行く

足音登 |

Shiftを放すと、
表甲鍵盤は音の鍵盤
を押で示している。
音は既に打っている
字である。即ち、
押を打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登^音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩
温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河
<- 5 -- 予 97F3

書写モードで
表記を打って行く

足音登 |

押から始まる鍵盤で
左中指^音の鍵を
打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 躰音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 0020

書写モードで
表記を打って行く

足音躰音 |

音が入り、注目字は後の半角スペースに移っている。しかしこの行は終りにして次の行に移るため、Enter (K63) を打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 躰音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; お

音無し - の

音 * ; おん

音韻 * ; お

音階 * ; お

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

以下同様にして、
「音」を使う語句を次々打って行く。
戻って繰返し打つことも
途中を略して先に進むことも
矢印鍵で自由にできる。

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 7570+

書写モードで
表記を打って行く

足音躰音

原稿は改行され、
注目字も次行の先頭
異に移る。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 — 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; お

音無し -の

音 * ; おん

音韻 * ; お

音階 * ; お

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

途中の図は略し、
この状態に至ったとして、
説明を少し続ける。

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予 611F

書写モードで
表記を打って行く

足音 登音

異口同音

音

音沙汰

音無し

音

音韻

音階

音楽

音

粥の鍵を打ち…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 躰音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

20区 かゆ～カン

粥刈苧瓦乾侃冠寒刊勘勸卷

喚堪姦完官寛干幹患感慣憾

換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環

甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

<-

7

--

予

611F

書写モードで
表記を打って行く

足音躰音

異口同音

音

音沙汰

音無し

音

音韻

音階

音楽

音

音

音

音

音

音

音

音

音

音

音

粥から始まる鍵盤で
感を打つ。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 躰音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予 0020

書写モードで
表記を打って行く

足音 躰音

異口同音

音

音沙汰

音無し

音

音韻

音階

音楽

音感

感が入ってスペース
に移る。
ここでEnter (K63) を
打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう
 音曲 * 歌舞- ;おんぎよく
 音訓 * ;おんくん
 音叉 ;おんさ
 音質 * ;おんしつ
 音信 * -不通 ;おんしん
 音声 * ;おんせい
 音節 * ;おんせつ
 音素 ;おんそ
 音速 * ;おんそく

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予 97F3+

書写モードで
 表記を打って行く

足音 蹙音
 異口同音
 音
 音 沙汰
 音 無し
 音
 音 韻
 音 階
 音 樂
 音 感

原稿は改行し、
 注目字は字引で次の
 群の先頭字に移る。
 (群が終っていたら
 次の項目の群)

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう

音曲 *

音訓 *

音又 ;

音質 *

音信 *

音声 *

音節 *

音素 ;

音速 *

以下、同様に続けることができるが、これに関連させて、別の操作を説明する。

即ち、この状態で、Shift を押しながら K55を打つと、注目字以下、その表記の終りまでが、新たな呼び字列となって、その編集を開始する状態になる。

この機能を応用すると、例えば、表記群にある別の漢字で、このような練習を続けることができる。その操作例を以下数枚のスライドで示す。

1 ~ 47

々 へ 世 阮 押 魁 術 候 供 拙 快 一 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予 97F3+

表記群にある表記を
呼び字列にする

足音 蹺音
異口同音

音沙汰
音無し

音韻
音階
音樂感

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう

音曲 * 歌舞- ;おんぎよく

音訓 * ;おんくん

音叉 ;おんさ

音質 * ;おんしつ

音信 * -不通 ;おんしん

音声 * ;おんせい

音節 * ;おんせつ

音素 ;おんそ

音速 * ;おんそく

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— <— あ — 予 97F3+

表記群にある表記を
呼び字列にする

足音 蹙音
異口同音
音
音 沙汰
音 無し
音
音 韻
音 階
音 樂
音 感

Shiftを押して…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう
 音曲 * 歌舞- ;おんぎよく
 音訓 * ;おんくん
 音叉 ;おんさ
 音質 * ;おんしつ
 音信 * -不通 ;おんしん
 音声 * ;おんせい
 音節 * ;おんせつ
 音素 ;おんそ
 音速 * ;おんそく

48~94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
 楯 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罍 隋
 M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵠
 堯 纈 忒 狃 釗 予 97F3+

表記群にある表記を
 呼び字列にする

足音 蹇音
 異口同音
 音 沙汰
 音 無し
 音 韻
 音 階
 音 樂
 音 感

Shiftを押しながら
 <:に変わったK55を
 打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音響

48～94区（第2水準）

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *

楮 槩 沍 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝

堯

D_ 00 A_ 予

表記群にある表記を
呼び字列にする

足音 蹇音
異口同音
音
音 沙汰
音 無し
音
音 韻
音 階
音 樂
音 感

音響 までの字列が
呼び字列に替わり、
その続きを編集する
状態になる。

Shift を放して…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音響

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予

呼び字列の編集

足音 蹙音
異口同音
音
音 沙汰
音 無し
音
音 韻
音 階
音 楽
音 感

表甲鍵盤に戻す。

呼び字列を響だけに
するため、←(K58)
を打って…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

音響

呼び字列の編集

足音 蹙音
異口同音
音 沙汰
音 無し
音 韻
音 階
音 楽
音 感
|

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予

BS

カーソルを1字前に戻す。
BS (K62) を打って…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

響

呼び字列の編集

足音 蹙音
異口同音
音 沙汰
音 無し
音 韻
音 階
音 楽
音 感

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

— < あ — 予

音を消し、響だけに
する。
書写モードで表記群
を出すため、
Shiftを押して…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響

48～94区 (第2水準)

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
 楮 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋
 M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝
 堯
 D_ 00 A_ 予

書写モードの起動

足音 蹇音
 異口 同音
 音 沙汰
 音 無し
 音 韻
 音 階
 音 樂
 音 感

Shiftを押しながら
Enter (K63) を打ち…

Enter

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響 常20 キョウ ひびく

影響 * ; えいきょう
 音響 * ; おんきょう
 交響楽 ; こうきょうがく
 交響楽団 * ; こうきょうがくだん
 交響曲 * ; こうきょうきょく
 残響 * ; ざんきょう
 地響き * ; じひびき
 響めく ; どよめく
 鳴り響く * ; なりひびく
 反響 * ; はんきょう

48~94区 (第2水準)

式 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 *
 楯 壁 汧 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋
 M_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵠
 堯 纈 忒 狢 釗
 <: 00 A_ 予 5F71+

書写モードの開始

足音 蹇音
 異口同音
 音 沙汰
 音 無し
 音 韻
 音 階
 音 樂
 音 感

響の語例群を出して Shiftを放す。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響 常20 キョウ ひびく

影響 * ; えいきょう
 音響 * ; おんきょう
 交響楽 ; こうきょうがく
 交響楽団 * ; こうきょうがくだん
 交響曲 * ; こうきょうきょく
 残響 * ; ざんきょう
 地響き * ; じひびき
 響めく ; どよめく
 鳴り響く * ; なりひびく
 反響 * ; はんきょう

1~47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 **院** 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①
 な た さ か 澄 織 **臓** 叩 帖 邸 董 α
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я
 <- あ -- 予 5F71+

書写モードの開始

足音 蹙音
 異口同音
 音 沙汰
 音 無し
 音 韻
 音 階
 音 楽
 音 感

先頭表記の先頭字**影**
 のある鍵盤が
 左人差指最上段に**院**
 で示されている。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響 常20 キョウ ひびく

影響 *

音響 *

交響楽

交響楽

交響曲

残響 *

地響き

響めく

鳴り響く

反響 *

1~47

タ

わ

な

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 ヤ

く あ 予 5F71+

以下、「響」を使う語句の練習ができる。

このように、1つの文字を中心にして、その文字を使ういろいろな語句を打ってみる。

主役の文字は何度も打つので覚えやすく、客役の文字によって語句の表記を覚える。従って、文字相互にこのやり方を適用することで、表記と共に位置の記憶もしっかりしたものに
なって来る。

英文タイピングと同様に、表記の綴りを1字ずつ打って行く方式ではあるが、表記の単位で滑らかに打つように心掛けると、楽に打てるようになってくるものである。打ち間違えた時に、指の違和感で、それに気がつくこともある。

書写モードの開始

足音 蹠音

異口同音

音沙汰

音無し

音韻

音階

音楽感

先頭表記の先頭字影

のある鍵盤が

左人差指最上段に院

で示されている。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響 常20 キョウ ひびく

影響 * ; えいきょう
 音響 * ; おんきょう
 交響楽 ; こうきょうがく
 交響楽団 * ; こうきょうがくだん
 交響曲 * ; こうきょうきょく
 残響 * ; ざんきょう
 地響き * ; じひびき
 響めく ; どよめく
 鳴り響く * ; なりひびく
 反響 * ; はんきょう

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①
 な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 Я
 <- あ -- 予 5F71+

書写モードの終らせ方

足音 蹙音
 異口同音
 音 沙汰
 音 無し
 音 韻
 音 階
 音 楽
 音 感

ここで書写モードを終らせることにして

<-が出ているK55を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

響 常20 キョウ ひびく、

呼び字列の編集

足音 蹙音
異口同音
音
音沙汰
音無し
音
音韻
音階
音樂
音感
|

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

あ 予

呼び字列の編集状態
に戻る。

ここで更に、
<_>が出ているK55を
打つと…

漢字からその語例を引く（読み付） 090516更新

呼び字列の
初期化

足音 蹙音
異口同音
音 沙汰
音 無し
音 韻
音 階
音 樂
音 感

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜- あ -- 予

呼び字列が空の状態
に戻る。

ここで更に、
＜-が出ているK55を
打つと…

通常入力に
戻る

即ち、倣い入力は、
(1) 呼び字列の入力
(2) 倣い打鍵の実行
の2段階から成るが
各段階で K55 を打つ
と、それぞれの前の
段階に戻る。

足音 蹠音
異口同音
音 沙汰
音 無し
音 韻
音 階
音 楽
音 感
|

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

通常入力に戻る。

7 百相鍵盤の字引

百相鍵盤では、入力したい文字の鍵が不明な時、その文字を含む適当な表記を倣い入力の表記領域に表示させれば知ることができる。そのような表示のしやすい語句などを集めてファイルにしたものを「字引」と呼んでいる。表記を知る手掛かりに使う文字列を見出し、該当する表記を内容、とする項目から成る。実際には表記自体を知りたい時もあるので、読みを手掛かりにして語句を表示させる字引を作ると、簡単な用字用語辞典相当になる。字引は、自分で自由に作ることができる。

本当は国語辞典などのファイルも使えるとよいのであるが、少くとも現時点では著作権等の制約から、百相鍵盤で能率よく自由に使えるようにするのは困難であるため、自作のもので間に合わせ、それを配布している。

字引の書式

字引の先頭(標題行) :

見出し tab 標題 tab 読上文 tab メモ

↑ 字引選択鍵盤の文字鍵には、この 見出し が出る。

項目の構成 :

. 見出し 備考 tab 読上文 tab メモ

表記 表記 表記 ... tab 読上文 tab メモ

表記 表記 表記 ... tab 読上文 tab メモ

...

表記 表記 表記 ... tab 読上文 tab メモ

見出し、備考、読上文、表記、メモは、いずれも文字列で、見出しと表記は半角スペースを含まない。見出しは、呼び字列との照合対象になる文字列で、備考は、呼び字列から表記群を出した時に、呼び字列行に見出しと共に表示させる文字列である。

↑ 呼び字列の編集時も、同様の備考を置くことができる。表記行先頭に . で始まる表記を置くことはできない。表記は半角スペースで区切れれば同じ行に列举できる。読上文は、行内容を音声で知らせる文字列である。メモは、使用者が字引に書き留めておく文字列で百相鍵盤は読み捨てる。

百相鍵盤の仕組みは言語や文字コードに依らないが、OS下の入力ソフトとして具体化する場合にはOSの指定に従う。配布版は、Unicode UCS-4のUTF-8符号化を用いている。

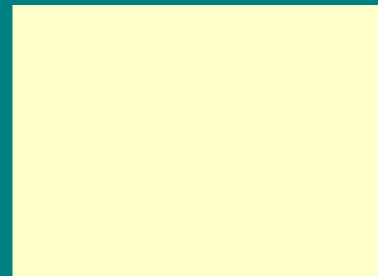
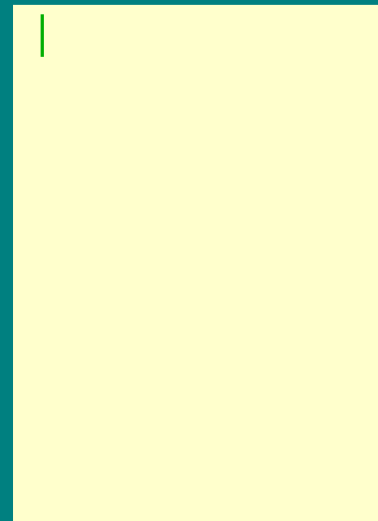
字引の標題

呼び字列 備考

鍵盤の標題

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	49
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
54	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
		55		48		56	57						

呼び字列行の表示形態



字引の標題

見出し 備考

表記 表記 表記 ...

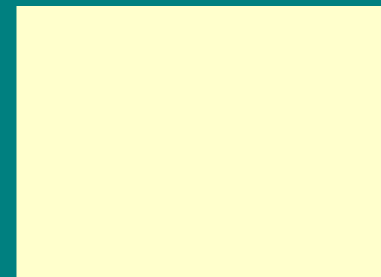
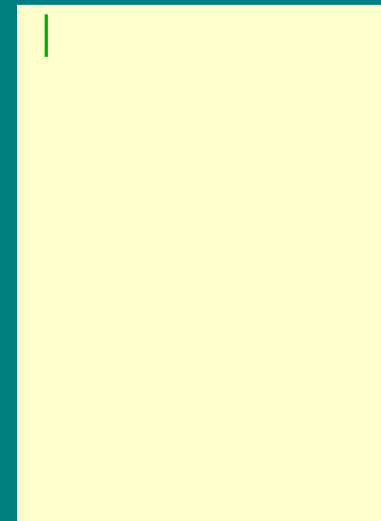
表記 表記 ...

...

鍵盤の標題

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	49
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
54	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
		55		48		56	57						Unicode

表記群が出ている時の
要素の表示形態



読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

表示形態

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

<- あ -- 予 5B8C+

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 朋
 な た さ か 澄 織 臓 叩 帖
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢
 <- あ -- 予

kiDic

.かんぶ
 乾布 * -摩擦
 完膚 * -なきまでに
 還付 * -金
 悍婦

:ka^Npu
 :ka^Npu
 :ka^Npu
 :kaNpu

.かんぶう
 寒風 *
 完封 *
 .かんぶく
 感服 *
 .かんぶつ
 乾物 *
 .かんぶつえ
 灌仏会 -の法会
 .かんぶまさつ
 乾布摩擦
 .かんぶん
 漢文 *
 .かんべ
 神戸

.かんぺき
 完壁 -を期する

.がんぺき
 岸壁 *
 岩壁 * -を登る
 .かんべつ
 鑑別 *
 .かんべん
 勘弁 *
 簡便 *
 .かんぼう
 官房 *
 感冒 *
 監房 -に入れる
 観望 形勢を-する

:gaNpeki
 :gaNpeki

:kaNbeTu

:kaNbeN
 :ka^NbeN

:kaNbou, na^ikaku kaNbou
 :kaNbou, kaze
 :kaNbou, kaNbouni ireru
 :kaNbou, keiseio kaNbousuru

.かんぼう
 官報 *
 漢方
 .がんぼう
 願望 *
 .かんぼうのまじわり
 管鮑の交わり
 .かんぼうやく
 漢方薬 *
 .かんぼく
 灌木 ⇨ 喬木 >低木
 .かんぼつ
 陥没 *
 .かんぼん
 刊本 ⇨ 写本

:ka^Npou
 :ka^Npou

:gaNbou

:ka^Npouno mazlwari

:kaNpou^Aku

:kaNboku

:kaNboTu

:kaNpoN

字引の項目例

読みで表記を引く字引である。引いた表記でその構成各文字の配字（打つ鍵）を引く。一般入カソフトの“辞書”とは趣旨が違っているので、文字通り、“字引”と呼んでいる。

漢字からその語例を引く(読み付) 09

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 蹠音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 朋

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢

く あ 予

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 蹠音 ; あしおと

異口同音 * ; いくどうおん

音 * ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 * ; おん

音韻 * ; おんいん

音階 * ; おんかい

音楽 * ; おんがく

音感 * ; おんかん

音響 * ; おんきょう

音曲 * 歌舞- ; おんぎょ

音訓 * ; おんくん

音又 * ; おんさ

音質 * ; おんしつ

音信 * -不通 ; おんしん

音声 * ; おんせい

音節 * ; おんせつ

音素 * ; おんそ

音速 * ; おんそく

音痴 * ; おんち

音調 -を整える ; おんてい

音程 * ; おんてい

音頭 * -を取る ; おんとう

音読 * ; おんどく

音吐朗々 * -たる声 ; おんとうろうろ

音波 * ; おんぱ

音盤 * ; おんぱん

音便 * ; おんびん

音符 * ; おんぷ

音譜 * ; おんぷ

音読み * ; おんよみ

音律 * ; おんりつ

音量 * ; おんりょう

和音 =わおん ; かおん

和音 差音 ; かおん

訛音 ; かおん

漢音 * -と吳音 ; かんおん

観音 * ; かのん

擬音 * ; ぎおん

吃音 * ; きつおん

高音 * ; こうおん

高音 * ピストルの- ; ごうおん

轟音 * 一大- ; ごうおん

吳音 * ; ごおん

五十音 * ; ごじゅうおん

声音 * 優しい- ; こわね

雑音 * ; ざつおん

子音 * -と母音 ; しいん

:o^N, oto

:aslot

:i^ku douoN

:oto

:otosata

字引の項目例

漢字の語例を知る字引であるが、基本字から1字ずつ習得して行く目的の教材として有用であることは既に紹介している。同様に、読みで語句を引く字引も、各項目を次々打ってみると、語彙の把握に役立つ。

:oNdoku

:o^Nto rourou

:o^Npa

:oNbaN

:oNbiN

:oNpu

:oNpu

:oNomi

:oNriTu

:oNrOu

:kaoN

:kaoN

:kaoN

:ka^NoN

:kaNnoN

:gioN

:kiTuoN

:kouoN

:gouoN

:gouoN

:gooN

:gozU^uoN

:kowane

:zaTuoN

:siIN

漢字からその語例を引く(読み付) 09

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう
 音曲 * 歌舞- ;おんぎよく
 音訓 * ;おんくん
 音叉 ;おんさ
 音質 * ;おんしつ
 音信 * -不通 ;おんしん
 音声 * ;おんせい
 音節 * ;おんせつ
 音素 ;おんそ
 音速 * ;おんそく

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 朋
 な た さ か 澄 織 臓 叩 帖
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢
 <- あ -- 予

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 * 登音 ;あしおと
 異口同音 * ;いくどうおん
 音 * ;おと
 音沙汰 ;おとさた
 音無し -の構え ;おとなし
 音 * ;おん
 音韻 * ;おんいん
 音階 * ;おんかい
 音楽 * ;おんがく
 音感 * ;おんかん
 音響 * ;おんきょう
 音曲 * 歌舞- ;おんぎよく
 音訓 * ;おんくん
 音叉 ;おんさ
 音質 * ;おんしつ
 音信 * -不通 ;おんしん
 音声 * ;おんせい
 音節 * ;おんせつ
 音素 ;おんそ
 音速 * ;おんそく
 音痴 * ;おんち
 音調 -を整える ;おんちょう
 音程 * ;おんてい
 音頭 * -を取る ;おんど
 音読 * ;おんどく
 音吐朗々 * -たる声 ;おんとうろうろ
 音波 * ;おんぱ
 音盤 * ;おんぱん
 音便 * ;おんびん
 音符 * ;おんぷ
 音譜 ;おんぶ
 音読み ;おんよみ
 音律 * ;おんりつ
 音量 * ;おんりょう
 和音 =わおん ;かおん
 和音 差音 ;かおん
 訛音 ;かおん
 漢音 * -と吳音 ;かんおん
 観音 * ;かんのん
 擬音 * ;ぎおん
 吃音 ;きつおん
 高音 * ;こうおん
 号音 * ビストルの- ;ごうおん
 轟音 一太- ;ごうおん
 吳音 * ;ごおん
 五十音 * ;ごじゅうおん
 声音 * 優しい- ;こわね
 雑音 * ;ざつおん
 子音 * -と母音 ;しいん

:o`N, oto
 :asloto
 :i`ku douoN
 :oto
 :otosata
 :otonasI
 :o`N
 :oNiN
 :oNkai
 :o`NGaku
 :oNkaN
 :oNkou
 :oNGoku
 :oNkuN
 :o`Nsa
 :oNsI Tu
 :oNsIn
 :o`Nsei
 :oNseTu
 :o`Nso
 :oNsoku
 :o`NtI
 :oNtOu
 :oNtei
 :o`Ndo
 :oNdokU
 :o`Nto rourou
 :o`Npa
 :oNbaN
 :oNbiN
 :oNpu
 :oNpu
 :oNomi
 :oNri Tu
 :oNrOu
 :kaoN
 :kaoN
 :ka`NoN
 :kaNnoN
 :gioN
 :kiTuoN
 :kouoN
 :gouoN
 :gouoN
 :gooN
 :gozU`uoN
 :kowane
 :zaTuoN
 :siIn

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

音響 * ;おんきょう

音曲 * 歌舞- ;おんぎよく

語句 印 用例 読み

ところで、例えば、この表記群の2行目を、
使用者は、上記内容のつもりで記載しているが、
百相鍵盤は、単に、スペースで区切られた文字列
の存在として認識するにとどまる。

このように、
文字列を使用者の自由な意味付けで列挙できるので
表記行には、“備考”欄がない。

このような百相鍵盤字引の柔軟性を活かした例を
以下のスライドで、二三示す。

な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		<-	あ		--	予				97F3+	

表記列

百相鍵盤は、打鍵を
配字簿で定義された
バイト列に変換して
送出、あるいは照合
するだけの機能で、
文字図形(グリフ)は
受け取ったシステム
(OS)が表示する。
言語的な意味内容も
使用者がバイト列に
与えて利用している
に過ぎない。

漢字からその語例を引く(読み付) 09

#1 第一学年の漢字 80字

一右雨円王 **音** 下火花貝 学気九休玉金
 五口校左三山子四糸字 耳七車手十出
 人水正生青夕石赤千川 先早草足村大
 町天田土二日入年白八 百文木本名目

1~47区(『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 **押** 魁 粥 機 供 掘
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 朋
な た さ か 澄 織 臓 叩 帖
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢
 <- あ -- 予

kiDic_gorei

#1 第一学年の漢字 80字 :da`i itlGa`kuneN

一右雨円王音下火花貝 学気九休玉金空月犬見
 五口校左三山子四糸字 耳七車手十出女小上森
 人水正生青夕石赤千川 先早草足村大男竹中虫
 町天田土二日入年白八 百文木本名目立力林六

#2 第二学年の漢字 160字

引羽雲園遠何科夏家歌京画
 丸岩午後語工帰弓牛魚考強
 古午後語工帰弓牛魚考強
 作算止市矢姉思紙寺自時
 場色食心地新親図数西声星
 太体台地知茶屋長鳥朝
 東答頭同道読内南肉馬売
 歩母方北毎妹万明鳴毛

#3 第三学年の漢字 200字

悪安暗医委意育員院飲運泳駅尖横屋温化荷界
 開階感漢館岸起期客急級宮球去橋美曲局
 銀区苦具君係輕血決研 県庫湖向幸港号根祭血
 仕死使始指齒詩次事持式実写者主守取酒受州
 拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神
 真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題
 炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄軒都度投豆島
 湯登等動童農波配倍箱燭 燭反坂板皮悲美鼻筆
 水表秒病品負部服福物平返勉放味命面問役薬
 由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列線路和

#4 第四学年の漢字 200字

愛案以衣位困胃印英栄塩億加果賃課芽改械害
 街各覚完官管関観願希季紀喜旗器機議求泣救
 給竿漁共協鏡競極訓軍郡徑型景芸欠結建健験
 固功好候航康告差菜最材昨札刷殺察参産散残
 士氏史司試児治辞席失借種周祝順初松笑唱焼象
 照貴臣信成宥清静席積折節説浅戦選然争倉巢
 束側繞平孫帯隊達単置仲貯兆腸飛底底停的典伝
 徒努灯堂働特得毒熱念敗梅博飯飛費必要標不
 夫付府副剖兵別辺麥便包望令冷例歴連老勞録
 約勇要養浴利陸良料量輪類令

#5 第五学年の漢字 185字

庄移因永宮衛易益液演応往校恩可仮価河過賀
 快解格確額干幹價眼基寄規技義逆久旧居許境
 均禁句群経潔件券陰検限現減故個護効厚耕鉦
 構興講混査再災妻探際在財罪難酸賃支志枝師
 資飼示似識質査謝授修述術準序冷例歴証条状常
 情織職制性政勢精製税責績接設否絶銭祖素総
 造増則測属率損退賞態断断張提程通敵統
 銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦
 富武復復仏編弁保墓報豊防貿暴務夢迷綿輸余
 預容略留領

#6 第六学年の漢字 181字

異遣域宇映延沿我灰扨革闊割株干巻看簡危機
 揮責疑吸供胸郷動筋系敬警劇激穴絹権憲源厳

表記や語句ではない例
 漢字表(の一部)

書写モードで習得字
 の総覧ができる。

入力練習用文例集

07

百人一首

1 天智天皇

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ

我ころも手は露にぬれつつ

2 持統天皇

春過ぎて夏きにけらし白妙の

衣ほすてふ天の香具山

3 柿本人麿

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の

ながながし夜をひとりかもねむ

4 山部赤人

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 月

な た さ か 澄 織 臍 叩 帖

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢

<- あ -- 予

kiDic_buNrei

百人一首

:hAkuniNi^sU

1 天智天皇

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ

我ころも手は露にぬれつつ

2 持統天皇

春過ぎて夏きにけらし白妙の

衣ほすてふ天の香具山

3 柿本人麿

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の

ながながし夜をひとりかもねむ

4 山部赤人

田子の浦に打出でみれば

富士の高嶺に雪は降りつつ

5 猿丸太夫

奥山に紅葉ふみ分けなく鹿

聲きくときぞ秋はかなしき

6 中納言家持

かささぎの渡せる橋におく

白きを見れば夜ぞ更けにけ

7 安部仲麿

天の原ふりさけみれば春日

みかさの山に出でし月かも

8 喜撰法師

わが庵は都のたつみしかぞ住む

世をうぢ山と人はいふなり

9 小野小町

花の色はうつりにけりないたづらに

わが身世にふるながめせしまに

10 蟬丸

これやこの行くも帰るもわかれては

しるもしらぬも逢坂のせき

11 参議筆

わたの原八十島かけてこぎ出ぬと

人には告げよあまのつり舟

12 僧正遍昭

天つ風雲のかよひ路ふきとちよ

乙女のすがたしばしとどめむ

13 陽成院

筑波嶺の峯よりおつるみな

戀ぞつもりて淵となりぬる

14 河原左大臣

みちのくのしのぶもぢ摺り誰ゆゑに

亂れそめにし我ならなくに

15 光孝天皇

君がため春の野に出でて若菜つむ

わが衣手にゆきはふりつつ

16 中納言行平

立別れいなばの山の峯に生ふる

まつとしきかば今かへりこむ

17 在原業平朝臣

表記や語句ではない例文章(短文)

古文でも入力操作は同じである。文字で文を綴って行く感じがつかめる。縦書きのテキストエディタで入力してみるとそのよさが分かる。

百相鍵盤の説明

09

5.5 装置としての百相鍵盤

百相鍵盤の機能は、一般画面からの呼び字列の取り込みを除くと、すべて参照簿のデータを使って処理する。従って、その処理で行う入力装置にしてしまうこともできる。鍵盤図の表示も音声出力も文字コード生成もOS下の機能を使わず、鍵盤に内蔵させて、OSには32ビットの文字コード列を送るだけの装置にする。制御コードも含むので打鍵が何であったかをOSや応用ソフトは特に知る必要もないはずである。OSの負担が

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘
わ ら や ま 后 此 察 次 宗 朋
な た さ か 澄 織 臓 叩 帖
如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢
← あ → 予

打鍵 keymap索表 IM(Input Method)
即ち、鍵盤からは1バイトで済む小さい文字集合であるラテン字だけが入り、漢字などの多バイト文字は、打鍵で入力された1バイト文字の文字列をIMが内部で変換して最終的に入力にしている。

『き』もIMの仕様で作ったラテン字→漢字など一般の変換ではなく、

keycode→漢字など一般の変換で入力する。これは拡張した処理をしているに

即ち、百相鍵盤の本質は、打鍵→keycode→ラテン字→一般文字

↑ 打鍵 keymap索表 IM

↑ 百相鍵盤 (Keyboard)

↑ 位置における機能の拡張

keymapは単なる変換表である。言語的な解析を必要としないのであれば、IMは、漢字など

既に入力側にあるので、分同音異義語選択指示などの

され、（例えば、スペルチェ

語句や文など言語に依存す

抜う高度な機能に専念でき

一般アプリケーションの方

が来たら単に付属する文字

でよく、IMサーバとの

など本来不要の（ためバグ

処理から解放される。

5.5 装置としての百相鍵盤

百相鍵盤の機能は、一般画面からの呼び字列の取り込みを除くと、すべて参照簿のデータを使って処理する。従って、その処理を鍵盤側で行う入力装置にしてしまうこともできる。

鍵盤図の表示も音声出力も文字コード生成もOS下の機能を使わず、鍵盤に内蔵させて、OSには32ビットの文字コード列を送るだけの装置にする。制御コードも含むので打鍵が何であったかをOSや応用ソフトは特に知る必要もないはずである。OSの負担が減り、その分、安全でもある。

ただ、今それを具体化しても、現行OSでは使えないので、そのシミュレーションをIMの形で行ったものが『き』であるといえる。

謝辞
文字盤方式に対する一般の関心は薄く、文章などの入力には向かないとされている中で、

表記や語句ではない例文章(まとまった文)

新聞や事典あるいは「キーワード」書の項目を字引に収め、それを書写モードで繰返し打ってみると内容を勉強しながら入力練習ができて有意義である。同じ文章の繰返しでも、あっても、使われている各文字が打てるようになってくるので、応用が利く。

百相鍵盤の方式は、どの文字も位置さえ知っていれば直ぐ打てる。そこで、

- 1 不確かなら盤面を見て知る、
- 2 不明なら配列規則を拠り所に探して知る、
- 3 それも難しければ字引で教わって知る

という対処の仕方を確立させている。

文字あるいは表記そのものを知らない場合は、位置以前の問題であるが、それも3に含まれ、結局、入力への支援は、すべて位置を教えることに帰着する。倣い入力の機能は、この3に相当し、それで学び、以後、2、さらに1で済むようになって上達して行く。

いずれにしても、試行錯誤の経験をその後に活かせるので、自分がよく使う字であれば、楽に打てるようになってくる。さらに、既に知っている文字の鍵を覚えるだけではなく、盤面から文字を知り、自分の知識を増せることもこの方式の利点である。

なお、思い込みによる誤表記の入力は、入力方式に依らず起こり得る。そのため、一般には、入力の操作とは別に、スペルチェックも必要である。